

2023年度第3回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要	
開催日時	2023 年 12 月 2 日 ～ 2024 年 1 月 26 日
開催場所	図書室
出席委員	市原、森、長田、原、小西、水谷、大塚、中西、坂（敬略称、順不同）
研究計画変更の審議	
申請者	加藤 康太
研究名	回復期リハビリテーション病棟におけるFunctional independence measureの経時的変化と転倒の関係について
研究内容 要旨	回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期リハ病棟）では積極的なリハビリテーションの介入により身体機能の改善が得られやすいが、その反面、転倒の危険性も高くなる。そのため、転倒を予防することは回復期リハ病棟における課題の一つとなっている。先行研究において、ADLの評価尺度であるFunctional independence measure（以下、FIM）を用いた転倒予測調査が行われているが、入院時のFIMを用いたものが多く、転倒時の実際のFIMと転倒の関係についての調査はほとんど行われていない。そこで本研究の目的は、入院時FIMだけでなく、入院中のFIMの経時的変化と転倒の関係について明らかにすることである。そして、FIMによる転倒リスクの違いを把握することで、どの患者に特別な注意や予防措置を講じるべきかなどを検討することができ、回復期リハ病棟において、より効果的な転倒予防策に繋げることができると考える。
審議結果	委員会開催 2023-8-2
意見	「FIMの経時的変化と転倒との関係性をどのように解析するのかわかりにくい」との意見があり委員会を開催しました。転倒リスクをFIMの総合点と共にどの項目の変化(特に運動項目)が影響するのか検討していくとの説明があり承認としました。
研究計画変更の審議	
申請者	神戸 駿大
研究名	障害者施設等入院基本料算定病棟における入院関連機能障害(Hospitalization-Associated Disability: HDA)の発症率と特徴について
研究内容 要旨	本研究の目的は、当院障害者施設等入院基本料算定病棟入院患者の患者背景因子(年齢、性別、身長、体重、BMI、認知症の有無、介護認定の有無、介護度、在院日数)加えて、血液生化学データ(C反応性蛋白、血清アルブミン値)、栄養リスク指標(Geriatric Nutritional Risk Index)（以下、GNRI）入院時及び退院時の機能的自立度評価法(FIM)の結果を後方視的に分析し、HADの発症率および発症に関連する因子を調査することです。HAD発症に関連を認めた因子に着目して早期から介入することで、HAD発症率の減少に繋がる可能性があると考えます。
審議結果	承認 2023-10-2
意見	前回指摘された「HADの定義がこれで良いのか」、「具体的な研究対象者が不明瞭」、「評価項目に追加が必要ではないか」等の点について修正されており、更に委員会にて詳しい説明がされ、承認としました。

新規研究計画の審議	
申請者	福田 奈七美
研究名	当院男性リハビリスタッフに対する職場環境調査
研究内容 要旨	男性育休制度はジェンダー平等の促進とワークライフバランスの向上に貢献する重要な社会政策である。国内でも、男性の育児休暇取得を推奨するために新たな産後パパ育休制度が導入され、当院リハビリテーションセンターでも男性スタッフの育児休暇取得が増加している。さらに子育てしながら働く男性スタッフの割合も増加傾向にある。この変化に対応するため子育てに性別を問わず積極的に関わる環境整備が必要である。これまで女性に焦点を当てた調査は多く実施されているが男性に焦点を当てた調査は限られている。したがって今回は当院の男性リハビリスタッフに焦点を当て、職場環境に関する調査を行い、働きやすい環境を整備するための情報を収集し、活用することを目指す。
審議結果	委員会開催 2023-12
意見	侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審査と考え、迅速審査を行いました。 「個人が特定されるかもしれないことで、心理的苦痛があるかもしれないため、委員の意見を伺いたい」との意見や「どう活用するのか（現状の調査?）」との意見もあり、倫理委員の意見や研究責任者の意見を聞く必要があり、委員会開催としました。
研究計画変更の審議	
申請者	福田 奈七美
研究名	当院男性リハビリスタッフに対する職場環境調査
審議結果	継続審査 2023-12-2
意見	開催された委員会において、今回の研究目的には職場環境の改善が含まれており、「人を対象とする生命科学・医学系研究」として妥当なのかとの意見があり、研究目的の変更を含め研究を見直す必要があると考えられ、継続審査としました。